垂水史談会報

第 75 号
2026（令和 8）年
２月発行

『第六垂水丸遭難事故』を語り継ぐ

第六垂水丸遭難事故は、ぜひとも語り継いでいきたい歴史的事件です。しかし、水上勉の小説や三国連太郎主演の映画でも有名な洞爺丸遭難事故に次ぐ、日本の海難史上2番目の大事故であったにも関わらず、垂水市民の中にも知らない方が多い事件です。

垂水史談会では、「一人でも多くの人に事実を知ってほしい。」「歴史の教訓として後世に語り継いでほしい。」という思いから、毎年二月に第六垂水丸遭難事故を語り継ぐ展示や学習会を行っています。今年も二月一日～二十四日まで資料展示を二月二十二日には、学習会を計画しています。市立図書館にぜひお越しください。

新しく作成した第六垂水丸遭難事故を取り上げた紙芝居も展示しています。（ただし途中までですが・・）

【報告】

まち歩き講座（ブラセスミ）第８回

～　あなたの知らない垂水が見つかる。
瀬角さんとブラブラ歩いて学ぼうブラセスミ　～

まち歩き講座（通称、ブラセスミ）第８回は牛根公民館を出発して牛根中学校跡↓喜翁院跡↓穴籠の滝↓西南戦争招魂碑等を巡り牛根公民館へ帰るコース。牛根地区は姶良カルデラの外輪山に位置する地域になると瀬角さんより話があり、今回は二十一名の参加で当初約二時間の予定でしたが晴天にも関わらず冷たい北西の風が吹く中、約一時間半でめぐってきました。

旧牛根中学校はかつて垂水市の中でも生徒数が二番目に多い中学校でした。中でも昭和四十年代初期、女子バレーボール部は全国制覇を成し遂げる活躍で当時話題になりました。喜翁院跡は現在墓地になっていますが当時は禅宗寺だったそうです。ここの跡地を示す標木には「望海山喜翁院（寺跡）」と書いてありその名のとおり海を臨む景観の地にありました。さらに山手へ歩くと垂水市の中で随一と言われる穴籠（ししごめ）の滝の見える路上へ出ました。

残念ながら遠くからしか観ることができず皆さん目を細めて眺めていました。ちなみに、落差が二十メートルほどの細い滝です。今度観に行くときは、ぜひ双眼鏡を持参してください。

最後に、西南戦争招魂碑に立ち寄り、「田原坂」と似たような、官軍と賊軍の戦いが牛根村でもあり、当時の様子を現地に住んでいた和田英作氏の父親である和田英豊氏が記録を残し、官軍に報告されたという話がありました。

西南戦争招魂碑の前で

冒頭にも述べましたが、冷たい季節風がいっそう体感温度を低くするも、道中には白梅やビワの花が咲き始め、「春遠からじ」の前兆をも、少し感じた「まち歩き講座」でした。　（市来　恒男）

＜次回のまち歩き講座＞

第九回　二月二十二日(日)

午前9時　新城地区公民館集合

※内山観音、カネサッドンなどを見学しながら、新城地区をブラブラします。
午前十一時か十一時半ごろ終了予定。
★天候によっては、座学になります。新城地区公民館にて。
★史談会会員は、いつでも参加できます。（会員特典です。）

★過去の「垂水史談会報」は、インターネットで『大隅史談会』ホームページを検索して、「各地域での活動」をクリックすると、平成３０年の第３０号から閲覧できます。

《研究ノート》『孝子市太郎の墓』

「孝子市太郎」の話は、「垂水市史料集（三）民話・伝説」にも載せられているお話です。

新御堂の6才の子ども・市太郎は、父を看病し、母の手伝いをする近所でも評判の孝行者でした。病のためひどくのどのかわきを訴える父に冷水を与えようと井戸の水を汲もうとして、誤って井戸に落ち、帰らぬ人になってしまいました。両親の嘆き悲しみは、はかり知れないものでした。領主・島津貴典は、美談と讃えて、『孝子市太郎の墓』を建て、その碑文を家老に命じます。

その墓が、今も新御堂の竜福院跡に残っています。墓までの通路や周囲は、近年荒れ果てていましたが、一月に整備して見学できるようになりました。この史跡のように、垂水市では、手入れがされずに、荒れ果ててしまい、見学できなくなっている史跡がいくつもあります。なんとかしたいものですね。

《お知らせ》

◇二月一日（日）～二十四日（火）

第六垂水丸遭難事故展示　市立図書館で

☆二月二十二日（日）午後2時から、学習会をします。

体験者・田尻正彦さん（102歳）の証言と紙芝居「六十五年目の証言」のお披露目を計画しています。

◇二月八日（日）→延期→三月二十一日（土）

戦争遺跡調査　成果発表会

市民館大ホール　13時～16時

＜研究ノート＞　蝶　の　話

第6回　旅をする蝶

♬　この大空に翔を広げ飛んで行きたいよ～　♬

これは「赤い鳥」の唄。今回はアサギマダラの話です。

移動ルートの図をご覧ください。凄いですね。秋に北から南へ春に南から北へと移動。二千キロ旅した記録もあります。翅に捕らえた場所や日付を記して（右中写真）放ち旅の記録を探ります。蝶の大きさは翅を広げて十センチ程。フジバカマの花でよく吸蜜します。

でも世界には、数千キロも渡りをするオオカバマダラと言う蝶もいますよ。

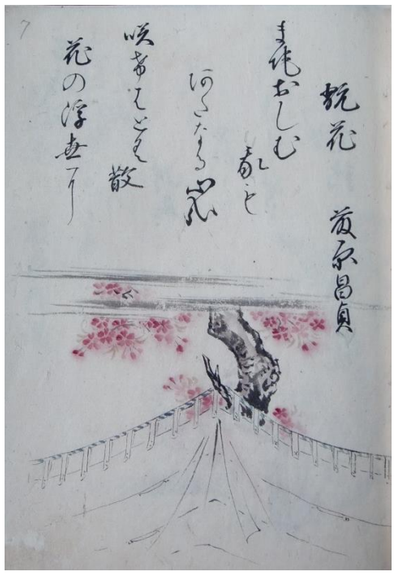
（市来　恒男）

〈訃報〉　垂水史談会で長い間活動され、今年度も監査を務めていただいた阿世知好子さんが、ご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

＜垂城三十六歌撰　その8＞

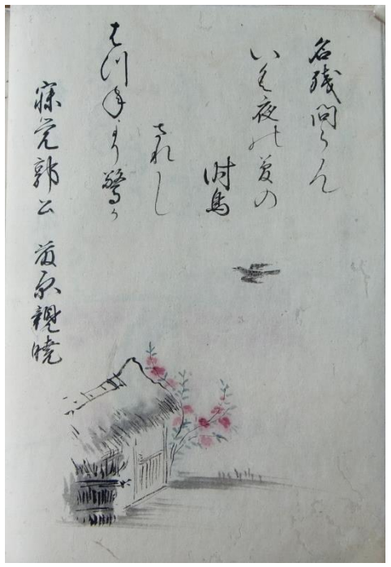
翫花　　藤原昌貞　　（翻刻・瀬角龍平）

まちおしむ
　我も
　あたなる心哉
咲けはとく散
　花の浮世に



名残問らん
いく夜の夢の
　時鳥
　されし
はつねより驚か

寝覚郭公　　藤原親暁



垂水では、はやくからすぐれた歌が数多くよまれてきました。１８３５年に編纂された「浪の藻屑」には、垂水領主から町人まで１６５人の名と２０００首の歌がしるされています。その中から、特に秀でた３６人を選んで「垂城三十六歌撰」と称しました。